

岡山市のがん対策における今後の焦点

〔 平成 27 年度 第 2 回岡山市
がん対策推進委員会で検討 〕

1 がんの予防

○禁煙対策の充実

- ・ 吸い始めの時期へのアプローチ
- ・ 禁煙に向けたアプローチ

○がん教育の推進

- ・ 教育委員会と連携し、実施校の増加と定着に向けたアプローチ

2 早期発見の推進

○がん検診受診率の向上

- ・ 特に、肺がん、乳がん検診に対する受診に向けた取組の充実

○がん検診の精度管理

- ・ 胃がん、肺がんに加え、大腸がん、子宮がんの精検受診に対する取組の充実
- ・ 胃がん検診については、国の指針に基づき、対象者及び検査方法の見直し

3 緩和ケア・在宅医療の推進…2025 年をターゲットとした対策

○かかりつけ医の普及啓発

- ・ 特に 60 代～70 代前半の市民に対するアプローチ

○事前ケア計画書（ACP：Advance Care Planning）の普及啓発と活用

地域医療連携の推進に向けた ACP の活用に関する普及啓発

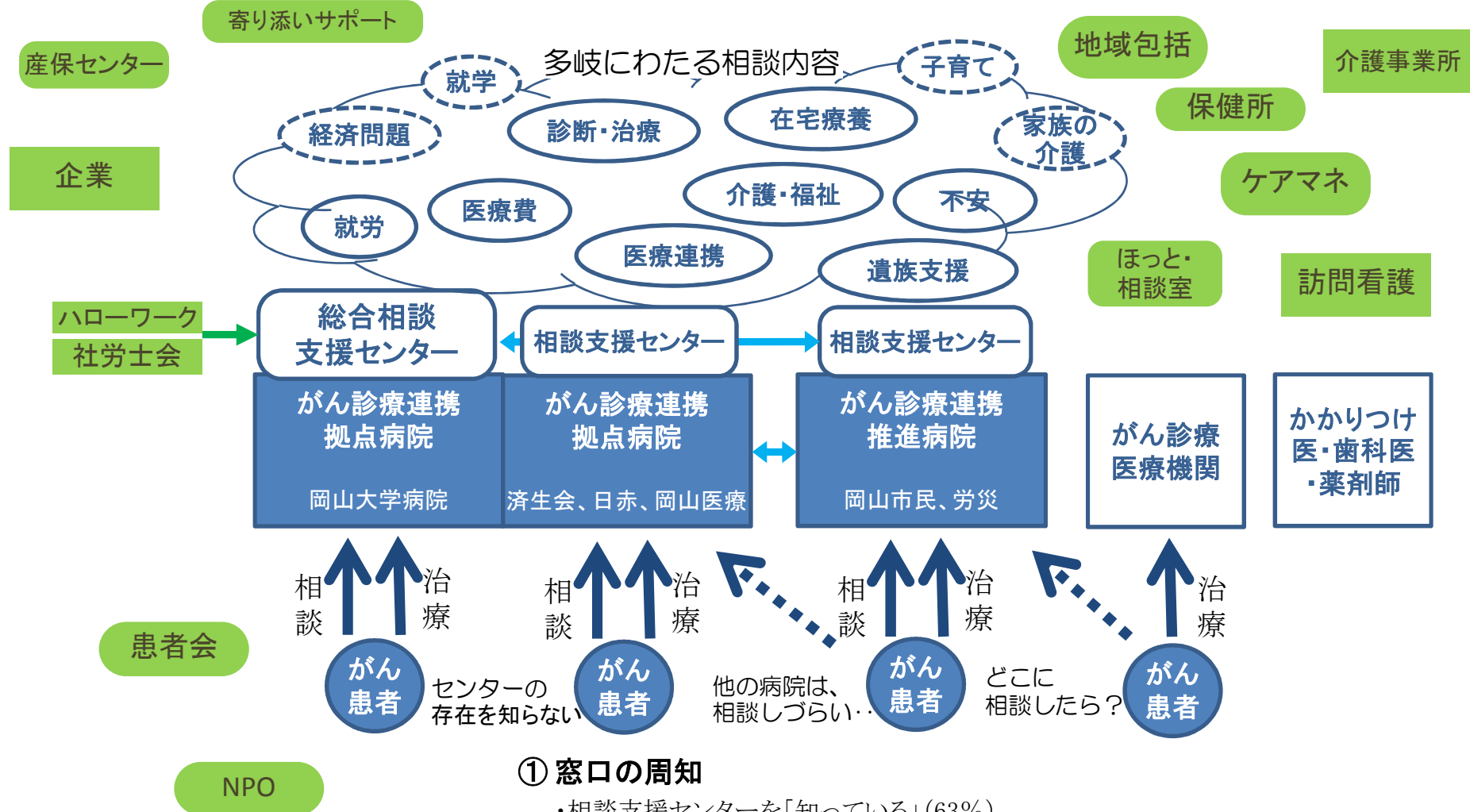
がん患者・家族の相談支援体制の現状

② 治療と就労の両立支援

- ・自営業:休業・縮小・廃止(53%) 年収減(23%)
- ・自営業以外:依願退職、休職、解雇(35%) 年収減(13%)
- *岡山県 就労・療養に関するアンケート

③ 終末期の緩和ケア・在宅療養支援

- ・がんの高齢者の増加
- ・認知症のがん患者の意思決定
- ・緩和ケア



① 窓口の周知

- ・相談支援センターを「知っている」(63%)
- ・「知っている」人の中、「利用したことがある」(18%)
- *岡山県 就労・療養に関するアンケート

がん患者・家族の相談支援体制に係る課題

① 相談窓口の周知

- ・「がん相談窓口」カードの活用（内容・配布方法等）

② 治療と就労の両立支援

- ・岡大には、ハローワーク等の就労相談員が週1回派遣され、相談を受けることができるが、利用者は少ない
- ・産業保健センターが企業訪問相談を行っているが、利用者が少ない
- ・就労相談のみならず、暮らし全般に関する相談もある

③ 終末期の緩和ケア・在宅療養支援

- ・一部の地域では、病診連携、多職種連携が進んできたが、往診可能な医師、薬剤師、歯科医師等の現状把握、養成が必要
- ・介護保険の活用に関しては、ケアマネを中心に対応できているが、40歳以上に限定

④ 複合的な課題を抱えた相談支援体制

- ・特に、AYA世代は、進学・子育て・就労等の複合課題を抱えるケースあり、ネットワークの相互利用など検討が必要